

## 第2学年3組 道徳科学習指導案

日 時 令和8年1月15日(木) 第5校時  
在 籍 男子18名 女子20名 計38名  
場 所 2年3組教室  
授業者 教 諭 小川 堅大

1 主題名 周りの人のことを考えて 内容項目 [C—(10) 遵法精神・公德心]

2 本時のねらい・教材名

主人公のミサとおじいさんとの電車内でのやりとりについて話し合う活動を通して、公共の場で自律的に適切な言動をとる大切さについて自覚を深め、公德心をもって規律ある安定した社会の実現に努めようとする道徳的実践意欲を育てる。

教材名 「宝塚方面行き—西宮北口駅」(東京書籍・「新しい道徳2」)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時では「公共の場での適切な言動を考え、公德心をもって行動しようとする道徳的実践意欲を育てる」ことをねらいとしている。公共の場のように人間が集まって社会が形成されると、「私」と「私」の利益がぶつかり合って集団のまとまりがなくなり、結局一人一人の願いが実現できないことがある。「法やきまり」は、この集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするために、人間の知恵が生み出したものであり、その秩序によって、個人の自由が保障されることにつながる。公德心とは、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にすることである。

指導について、まず住みよい社会の実現のためには、社会の一員であるという自覚、他人への配慮や思いやりを大切にすることについて考えを深めることが求められる。加えて、互いの権利を尊重し、義務を果たすことの重要性を理解させたい。こうした「公」を大切にすることについての考えをより深めていくために、その反対側にある「自分自身」や「自分と密接な関係にある存在」などの「私」を大切にすることとの関係についても気づかせたい。そして、自らに課せられた義務を果たすことが、結果として、規律ある安定した社会の実現への貢献につながるのである。

また、本時の授業をとおして、自己の今までを振り返りながら、自分自身が公共の場で適切な言動をとっていたか、これから社会の一員としてどうあればよいか等について考えさせていきたい。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

小学校高学年で「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと」を学んできている。また、中学校では「父の手作りのベンチ」や「ゴミ箱をもっと増やして」を教材として、「そのきまりがある理由を理解したうえで、きまりを守ろうとする態度」について考えを深めてきた。10月には、社会科(地理分野)において「近畿地方～景観防止条例～」の学習を通して、なぜそのようなきまり(条例)があるのか、きまりの必要性や生活や文化、その地域の気候や特色に合わせて、きまりはつくられることについて学習した。

また、本学級の生徒は「規則やきまり」について、守らなければいけないものという認識はあると考える。しかし、登下校時の様子や地域の方からの話を伺うと、今自分の行っていることが誰かの迷惑になっていないか、公共の場で適切な言動をとれているか等、自分を顧みる中で、よりよくしていこうとする意識が不十分であると感じる場面もある。

「きまりだから守る」という短絡的な考えではなく、なぜそのようなきまりがあるのかという背景や意義を深く理解した上で、自他の権利や義務を尊重しながら生活しようとする態度を育てたい。

### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公のミサと友人のマユミが、電車内でのおじいさんと乗客たちのやりとりの中で、今までの自分たちの行動を見つめはじめる物語である。

主人公のミサが友人のマユミのために電車内で鞆を置いて席を取っていた結果、目の前のおじいさんにその行為を指摘され、誰かが守ってくれると思っていたが、車内の乗客たちからも冷たい目を向けられてしまう。非難の眼差しは、大きな声で怒鳴ってきたおじいさんではなく、自分自身（ミサ）に向けられていたことでようやく自分の行動の愚かさに気づくことになる。

生徒も登下校や学校行事などで公共の場を使うときなど、これに似た体験や場面に遭遇していることが考えられる。ミサの電車内の言動について考えることで、公共の場における自分の言動を振り返り、自分事として考えを深めることができる教材である。

自分勝手な言動が知らず知らずの間だとしても、多くの人に迷惑をかけてしまうことがあり、自分の権利だけでなく、まず他者の権利を考えることの大切さについて気づかせたい。加えて、社会の一員として公共の場で自律的に適切な言動をとることの大切さについて考えを深めさせていきたい。

## 4 研究主題とその視点

### ○研究主題

『生き生きと輝く対話を生み出す道德教育～「本質的な問い」のある授業を通して～』

### ○研究主題をもとにした授業の流れと視点

(1) 中心発問をし、生徒が今もっている考えを引き出す

→主人公が置かれている道徳的価値に関わる場面で立ち止まり、選択に迫られる行為や心の持ち方等を推測する。その上で、その選択をした点あるいはしようとしている理由を考えるという手順である。

### 本時では

「「やったらあんたが席替わったらええやろが！言い訳すな！」と言われ、マユミが来るのをじっと待っているときのミサの心の中はどんなだろう。」としている。

(2) 問いを二分し、それぞれの理由を考える

→上記で出た意見をもとに子どもの内面の根底に位置している道徳的価値観を引き出すための手段  
・本質的な問いについて交流し、吟味する

本時では

おじいさんに叱られたことに対して、「反省している気持ち」と「疑問や反抗したい気持ち」としている。

(3) 本質的な問い

→道徳的価値観を高めるために交流や吟味を行う

本時では

「なぜミサは、混んできた中でも鞆をどかそうとしなかったのだろう」としている

(3) 本質的な問い

→道徳的価値観を高めるために交流や吟味を行う

本時では

「なぜミサは、混んできた中でも鞆をどかそうとしなかったのだろう」としている

## 5 学習指導過程

	学習活動	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の観点
導 入	1 東京メトロで使用されている啓発ポスターについて、□に当てはまる漢字一字は何か考える。	・「家」でやろう ・「店」でやろう ・「海」でやろう	・資料の内容に繋がるように共有や声かけを行う。 ・本時で取り扱う道徳的価値について、問題意識を持たせる。
展 開	2 教材を読んで、考えたことを周囲の人たちと伝え合う  3 二分法を用いて資料から道徳的価値について話し合う  中心発問 ・「やったらあんたが席替わったらええやろが！言い訳すな！」と言われ、マユミが来るのをじっと待っていると	・なんでこんなことをしてしまったのだろう ・早くマユミに来てほしい ・私のしたことってそんなに	・短冊や絵を用いて教材の内容を確認させる。

<p>きのミサの心の中はどんなだろう。</p> <p>4 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">発言を大きく2つに分ける問いとその理由</span></p> <p>○「席取りをしなければよかった…」という反省(後悔)の気持ち</p> <p>●「なんでこんなに怒られなければいけないの？」という疑問や反抗したい気持ち</p> <p>5 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本質的な問い</span>について考え、話し合う</p> <p>・なぜミサは、混んできた中でも鞆をどかそうとしなかったのだろう。</p>	<p>悪いこと？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここから逃げたい</li> <li>・なんでこんなに怒られなければいけないの？</li> <li>・疲れているマユミのためにしてあげたことなのに</li> <li>・後悔している</li> </ul> <p>【「席取りをしなければよかった…」という反省(後悔)の気持ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・座りたい人は他にもたくさんいる</li> <li>・後から乗ってくるマユミが優先的に座るのはおかしい</li> </ul> <p>【「なんでこんなに怒られなければいけないの？」という疑問や反抗したい気持ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マユミに頼まれたのだから裏切ってはいけない</li> <li>・疲れているマユミのためにやった親切心</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の様子や状況を把握しきれなかったから</li> <li>・全体が見えず、自分の都合を優先してしまったから</li> <li>・自分のしていること(席取り)が、そもそも悪いことだという認識がなかったから</li> </ul>	<p>☆公共の場で自律的に適切な言動をとる大切さについて自覚を深め、公德心をもって規律ある安定した社会の実現に努めようとする意欲を高めることができたか。</p>
--	--	--

	6 これまでの自分を見つめながら振り返りを記入する		☆自身の経験を振り返り、公共の場での言動について考え、今後の生活に生かそうとしている。
終末	7 教師の話聞く (東京メトロ啓発ポスターを用いて) 「迷惑をかけてはいけない」 「周りの人のことを考えないとダメ」などのように、消極的な考えばかりでなく、社会をよりよくしていくために「こうしていこう」「誰かのためになることをやろう」などのように、積極的な考えをもつことが大切なのではないか。		・生徒の心に問いかけするような余韻をもった終末にする。

## 6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

公共の場で自律的に適切な言動をとる大切さに気づき、公德心をもって規律ある安定した社会を築いていくために必要なことを、多面的・多角的に考えようとしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

自身の経験を振り返り、公共の場での適切な言動について、今後の生活に生かそうとしている。

## 7 板書計画

宝塚方面行きー西宮北口駅

周りの人のことを考えて

「やったらあんたが席替わったらええやろが! 言い訳すな!」と言われ、マユミが来るのをじっと待っているときのミサの心の中はどんなだろう。

なんでこんなことをしましたのう? (反省)

早くマユミに乗ってほしい。

私のしたこと、そんなに悪いこと...?

ここから逃げたい。後悔している。

なんでこんな経験しなければいけないの...?

マユミのためにしたことなの...。

席取りしなればよかった...マユミの反省の気持ち。

座りたい人は、他にたくさんいるはずだ。

たしかに迷惑...。

本当に必要な人らしい...。

後から乗ってくるマユミは復讐的! 座るのはおかし。

「そんなに悪いこと?」

「この反抗したい気持ち。」

「なぜミサは、混んできた中でも相手をどかさずしなかつたのだろう。」

周囲の様子や状況を把握しきれなかつたから。

全体が見えず、自分の都合と優先してしまつたから。

「でもそんなに悪いことという認識がなかつたのう。」

マユミに頼まれたのだからしょうがない。

マユミのためにやった親切心。

自分はずが悪い...!

とにかく気が収まらない...

マユミが一番! 周りの人は気が付きなかつたから。

12月8日(月) 直 ☆